



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### ①生徒の課内(授業)の取り組み

##### ア：中学校の学年ごとの取り組み

中学1年生は、全員が6月6日(月)授業日1日間を使って、総合学習として海の調査実習を行った。地元のボランティア団体「松阪・松名瀬再発見プロジェクト」の協力のもと、地元に残る日本有数の干潟を持つ松名瀬海岸で海の生物やそこではたらく方々の話を聞く機会をもった。三重大学生物資源学部海洋生態学研究室木村妙子准教授、松阪漁業協同組合大橋純郎組合長、ざっこ Club (無人島を利用したツアーや水中撮影などを行っている鳥羽の団体)佐藤達也代表、三重大学環境 ISO 学生委員会萩原伸育さんをはじめ、国土交通省の河川事務所の方々や市の公園整備課の方々、地元自治会の方々を講師に招き、『潮干帯の生物観察』『伊勢湾沿岸の漁業の現状と移り変わり』『前浜干潟の生物とその役割』『三重大環境 ISO 学生委員会の取り組み～干潟の植物』を行い、その事前・事後の講義を授業内で本校教員が行なった。なお、この授業は中1生対象に7年前から同じテーマで毎年改善しながら実施している。(本校は2015年度より継続して笹川平和財団より海洋教育パイオニアスクールプログラムとして選ばれている。)

中学2年生は、全員が7月に、長野県にある学園の保養所を拠点とした夏季合宿において、本校理科教員4名が全4クラスにそれぞれ分かれ、自然解説を行なった。車山から八島湿原、北八ヶ岳坪庭から北横岳にいたるまでのハイキングにおいて、高山植物の外部環境への適応、植物群系・遷移などについての概説のほか、外来植物の影響、絶滅危惧種の保護などについての解説を行ない、宿舎においては事前講義を行った。それに当たっては本校教員の自作の植物図鑑を用い、また試験でも合宿で学んだことを出題したり、感想文を提出させたりすることで定着をはかった。

中学3年生は、5月の研修旅行の中で、29名が愛媛大学沿岸環境科学研究センターの田辺教授の講義を受け、生物環境資料バンクを訪れ、海の化学汚染に関する実態を目の当たりにし、また44名が愛媛県立とべ動物園では、飼育員から絶滅危惧種の保護についての話を聞くなど、環境問題に対する理解を深める活動を行った。

##### イ：学園祭といった機会を活用した美化活動(一部課外活動も含む)

9月16日(金)に実施した学園祭に関して、生徒発案の新たな環境美化に向けて取り組み「ごみを減らすキャンペーン」「ごみ拾い・片づけを行う」が行われた。例年、学園祭の際には、多くのごみが出ること、校内にゴミが多く落ちるなどの問題が起きていた。その問題に対して、何か取り組みをする団体がないか公募したところ、三年制高校部2年進学クラス1組・2組および六年制中学校・高等学校美化委員会が手を挙げた。まずは、団体独自で話し合ったところ、三年制高校部2年進学クラス1組・2組は、日ごろスポーツクラスとして、クラブ活動で華やかな活動をしている。その生徒が、学園祭当日に学校内のゴミ拾いを行うことで校内美化に努めることを考えた。一方、六年制中学校・高等学校美化委員会は、学園祭の4カ月前から何をすべきか根本からの話し合いを重ね、各クラスに美化委員会が居ることを活用し、学園祭の準備の際に、不必要なゴミを減らす呼びかけを行った。さらに、学園祭の前日祭といった全校が一堂に会する際に、「ごみを落とさない」、「当日もごみをできる限り出さない」ように啓発するCMをつくり、

呼びかけを行うことを計画した。また、両者で話し合いを行い、学校の用務員さんへのインタビューをしたことにより気づいた、「学園祭終了後に毎年教員と業者が行ってきたごみ処理」を、三年制高校部2年進学クラス1組・2組および六年制中学校・高等学校美化委員といった計130名程で行うこととなった。そして、実際に実施した。

ウ：HR および SHR の時間を活用した、環境標語に関する取り組み

環境に対する意識を高めることを目的に、2年前より三重大学環境コンテストに参加をしてきた。しかしながら、昨年度までは、一部の教員が授業時間や HR の時間に呼びかけて行うといった、一部の生徒の参加に留まっていた。そのことについて、六年制高校部生徒会の生徒と教員が話をしている中で、この企画を、生徒の方から自分たち自身で行うことが提案された。その後、高校部生徒会が話し合いを重ね、中学部生徒会も同じく話し合いをし、代議員会にはかり、代議員が各クラスに持ち帰り、HR の時間や SHR の時間を使って、趣旨の説明、募集、回収、集計を行い生徒会が応募した。その結果、三重大学環境コンテスト2016 標語部門で、高校：2年生のHさんが最優秀賞受賞。その他に2年生のMさん、3年生のOさん、3年生のIさんも入賞した。中学校では、2年生のKさんが最優秀賞を受賞、2年生のSさんが優秀賞を受賞。3年生のNさんが奨励賞を受賞。また、この成果により三重中学校・高等学校が学校特別賞を受賞した。

②生徒の課外の取り組み

ア：科学技術部の取り組み

部活動として科学技術部(部員約30名)が、三重大学木村准教授の指導を受け、7年前より松名瀬海岸において環境省環境モニタリング1000の一環として、継続的な干潟の生物調査、アサリの生育調査などを行なっている。これは文科省の中高生の科学部活動振興事業に採用されており、以前は、三重県立博物館のティーンズプロジェクトの一環ともなっていた。活動で得たデータをまとめ、9月の学園祭での生徒全員の前での発表に続き、2月の三重生物発表会では、MieMu(三重県総合博物館)館長賞を受賞している。また生徒自身が調査をし、松名瀬海岸を良く知っており、その環境を守りたいと考えていることから、生徒主導(プログラムや資料の作成をはじめ、講師も生徒が務めている。)で、みえこどもの城(一昨年度より)、企業(京セラ玉城工場)などの松名瀬観察会および海岸漂着物の清掃活動を行っている。また、一昨年度からもっと他と繋がり、多くの方々に松名瀬干潟を知ってもらいたいということで、三重大学環境ISO学生委員会に協力し、5月14日(土)には300人規模、10月30日(日)には200人規模の海岸清掃活動および環境学習講座(アクアソーシャルフェス)を行った。また、さらにもっと松名瀬を知ってもらいたいと考え、12月11日(日)みえ環境フェアでは、研究発表と貝のキーホルダーづくりのブースを運営した。そして、N部長のみの参加にとなったが、鈴木県知事・大野三重県総合博物館長参加のもと11月5日(土)に行われたクリアー三重ユースサミットに参加をし、パネルディスカッション及び宣言を行った。また、三重県と愛知県より依頼を受け、7月23日(土)に、愛知県豊橋市で行われた三河湾大感謝祭に三重県代表として参加させていただいたり、昨年度の3月18日(金)になるが、これも三重県から依頼を受け、環境省主催、三重県共催の、地域から考える気候変動問題 in 三重～伊勢志摩サミットに向けて～シンポジウムに、パネルディスカッションのパネラーとして、当時部長の山本洋輝が参加させていただき、他の部員や当時高校1年4A組全員を参加者として60名程参加させていただいた。このように、自分たちで完結するのではなく、地域と繋がり活動の輪

を年々広げている。また、今年度最も大きな新しい動きは、10月15日(土)に、地元の松阪市立第五小学校四年生全員88名の土曜日授業を行ったことである。アクア松阪の依頼で、3カ月前からどのような授業を行うか、生徒が計画を立て、部員内で模擬授業を行い、第五小学校の先生と生徒が議論を行い、当日実施させていただいた。この他にも、1月31日(火)に、高校入試の休業日を活用し鳥羽市立安楽島小学校でも実施した。また、活動は海だけではなく、昨年度より森の活動を始め、まずは、現高校2年生全員のアンケート調査を行い、昨年度3月に日本森林学会高校生ポスター発表で発表した。また、その続編を本年度の3月に、鹿児島で行われた日本森林学会で発表した。\*「美しい水環境を未来につなぐまち創造協議会(アクア松阪創造協議会)とは、松阪地域の恵みある豊かな自然が未来の人にとって豊かに感じられるものにするを目的とし、良好な水環境の創造の取り組みを進めるために平成26年7月18日に発足した協議会である。協議会の参画者は、三重県、松阪市、松阪市教育委員会、三重大学、松阪飯南森林組合、松阪環境事業協同組合、松阪市漁業協同組合、松阪市自治会連合会他で、本校の教員Kが副会長を務めている。

イ：共同で主催する、松名瀬干潟の清掃活動・環境教育の実施

アの動きが発展をし、三年制生徒会、六年制生徒会、中学校生徒会、美化委員会、ボランティア部、科学技術部が主催者となって、本校の生徒対象に11月5日(土)に松名瀬海岸の海岸清掃活動および環境学習講座を行った。その結果、72名の生徒が参加し、地元の小藪自治会長や小川西黒部公民館長からの熱いメッセージをいただいた。この結果を、1月28日(土)三重大学ユネスコスクール研修会・評価2016ポストジュニア・サミット in くわな2017」で生徒代表が発表した。

ウ：六年制美化委員会の再生

ここ10年ほどの間、六年制の中学校および高等学校のクラスの係決めの際に、美化委員会は各クラス2名任命されていたが、特に活動をしていなかった。今年度から生徒会・美化委員長の発案で、活発に活動をするようになった。上記の学園祭での活躍はさることながら、美化委員会が、学内の美化活動についてクラスのSHRの時間に意見を集約して、今年度当初清掃活動が行われておらず、今後必要な清掃場所を見つけ出し、現在清掃活動を始めている。

エ：節エネ

生徒および教員全員がエネルギーの大切さを意識すべく、校内の電灯のスイッチには『こまめに電源を切る』およびエアコンのスイッチの所には『冷房は27℃、暖房は20℃』と書いたシールを張ることにより、注意喚起を行っている。

オ：高校のボランティア部が中心となり、地域環境に関わるいろいろな取り組みを積極的に行っている。その例として、ペットボトルキャップの回収を学校全体で実施。伊勢市の勢田川の七夕清掃。向野園(生活介護・就労継続支援)の大掃除を手伝っている。

カ：六年制中学校・高等学校防災委員会の立ち上げ

防災・減災に向けて、参加者を募り、現在行動計画を作成中である。

キ：向野園(生活介護・就労継続支援)様とつくる体育祭

生徒会は、6月7日(火)に、近隣の向野園(生活介護・就労継続支援)を体育祭に毎年招き、体育祭を地域と協働して行う場としている。今年度は103名の方々が参加された。競技としては、合同競技①(玉入れ)高校2年生男女60名程が参加、合同企画②(向野園さんの方々が焼いたクッキー食い競争)があり、中学3年生男女32名が参加し、玉を手渡すなどの心遣いや笑顔で声掛けをしていた。全体とし

て、向野園の笑顔と三重中高生の笑顔が一つになり、良い体育祭になった。生徒たちも身近にあるがなかなか関わる機会の少ない向野園との交流を楽しんでいる様子がみられた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）